

インボイス 多難の船出



インボイス（適格請求書）制度が10月1日に始まる。零細事業者やフリーランスへの負担が大きいためから反対が根強く前途多難の船出となる。政府は開始直前になって関係閣僚会議を開き不安の払拭に努めたが、検討する追加支援策は限定的にとどまる見通しだ。――①面参照

あす制度スタート

環境整備

「安心して事業に従事していただくための環境を整備していくことが大事だ」。岸田文雄首相は29日午前、官邸で開かれたインボイスの関係閣僚会議で、不安を抱える事業者に寄り添う姿勢を見せた。

ただ会議はこの日が初会合。岸田首相が設備を指示したのは9月4日

核心

と制度開始まで1カ月を切っていた。制度への懸念を伝える報道が相次いだ時期と重なり、年内の衆院解散・総選挙を視野に政権支持率の低下を防ぎたい思惑もありそうだった。ある国税庁職員は「制度の導入が迫る中で唐突だった」と困惑していた。

署名50万

「インボイス制度は私たちの生活を崩壊させる」。25日夜、官邸前で「インボイス制度を考えるフリーランスの会」が開いた反対集会には「STOPインボイス」などと書かれた黄色い旗やプラカードを掲げた千人超（主催者発表）が駆け付けた。英会話講師や漫画家、タレントが次々とマイクを握り、抗議の声を

首相官邸前でインボイス制度への反対を訴える人たち――25日

政府の説明後手に 不安払拭かなわず

張り上げると、大きな拍手が湧いた。会の資料によると「物価高の中でさらに生活が苦しくなる」「事務負担が増えるのが嫌で登録せずにいたら新規の仕事が来なくなった」といった声が寄せられている。制度への反対署名は50万を超えた。

千葉県酪農家の男性は、休日に自分の代わりに仕事をしてくれる「酪農ヘルパー」の収入を直撃すると強調。課税事業者である自身は「余計な会計業務を無償でしなければならぬ。いいことが一つもない」と訴えた。

漫画家の由高れおんさんは、アシスタントの年収は300万円以下が大半で、制度により収入が減れば「大変な仕事を何のためにしているのだろうと、夢をかなえる前に辞めてしまう」と話した。

ガス抜き

政府は、インボイス発行のために新たに納税義務を負う人の負担を軽減したり、制度に参加しない人でも取引を続けやすくしたりする特例を設けた。与党の税制調査会の幹部は「特例を含めた制度の周知が不十分なことや不安につながっている」と話す。広報や相談体制を強化する案が浮上している。

だが、こうした案は制度の維持が前提で、反対派が求める抜本的な見直しからはほど遠い。与党内からは「ガス抜きに過ぎない」との声が漏れた。